編集後記

本号の巻頭言は藤野陽三教授にお願いいたしました。

マネジメントに強くなれと題して、新設から保全へのシフトする今後のインフラ整備において、新設に比べ難易度の高い大規模修繕・更新における計画～架設および交通対策まで総合的に考えるマネッジメントの必要性、インフラの維持管理におけるイノベーションを起こすための先端・先進技術のマネッジメントの必要性について貴重なご意見を頂いております。先生にはご多忙のところ玉稿をお寄せ頂き、誠に有り難うございました。誌面を借りまして厚く御礼申し上げます。

昨年に2020年の東京オリンピックの開催が決定し、それに向けてインフラ整備もより活性化することになりますが、長寿命化のため維持管理はその中でも重要な課題となっております。維持管理のためには構造物の診断、評価、補修･補強まで総合的に考える高度な技術を必要となり、既存の技術を熟知した上での新たな技術の活用が重要であります。そのためには、技術の継承と技術開発が必要と考えられます。その点において、伊良部大橋では日本一厳しい塩害環境に対する最新の防食技術が採用され、品質確保のため鋼桁大ブロックの2000kmに渡る海上輸送を実施しており、橋梁技術の向上に寄与する大きなプロジェクトとなりました。

この技報においても、上記に関連して、伊良部大橋の鋼桁大ブロックの海上輸送、橋梁の耐久性向上に寄与するＦＲＲ製品（ＦＲＰ飛来塩分防護板、ＦＲＰ伸縮装置）の開発および鋼床版の補修･補強について報告されております。また、技術的難易度の高い様々な架設工事についても報告されております。このように、宮地の新設橋梁の開発・設計・架設から既設橋梁の維持管理に至るまで幅広い技術を報告することにより、橋梁に関する技術の継承と向上に寄与できれば幸いです。

最後になりましたが、執筆者を始め多くの関係者の御協力により本号を発刊することが出来たことに感謝致します。なお、本号から執筆者である弊社の技術者を読者の皆様へご周知頂きたく、顔写真を掲載させて頂きました。

宮地技報編集委員会

委員長	飯塚和通		
副委員長	河西龍彦	平島崇嗣	
委員	上原　正	奥村恭司	工藤康良
	小原　久	佐藤　充	瀬戸井　裕
	戸井口由和*	永谷秀樹*	西垣　登
	松本博樹	百瀬敏彦	

*印　事務局兼務

宮地技報　第27号

発行日　平成26年6月

発行所　宮地エンジニアリング株式会社

〒103-0006　東京都中央区日本橋富沢町19番19号

TEL　03(3639)2111(代)

印刷所　望月印刷株式会社